

2023 年度年報発行にあたって

公益財団法人泉屋博古館 2023 年度年報をお届けいたします。

泉屋博古館は、住友家が収集した美術品の寄贈を受け、昭和 35 年 (1960) に財団法人として設立、現在、京都東山と東京六本木におきまして、保存、調査研究、公開の各事業を行っております。

2023 年は新型コロナウイルス感染症の予防規制がようやく緩和され、ウィズコロナの生活様式が定着し、美術館活動も「かつての日常」を取り戻しました。とくに泉屋博古館東京はリニューアル 2 年目を迎え、年間展覧会数をこれまでの 4 回から 5 回に増やすとともに、新設した講堂で、講演会、各種講座、ワークショップなどの教育活動を実施することができ、多くの来館者により多角的な美術鑑賞の機会を提供することができませんでした。

展覧会は京都、東京で計 10 回開催いたしました。そのなかでも東京では、3 月から 5 月にかけて安宅コレクションから選りすぐった名品 101 点を展示した特別展覧会を大阪市立東洋陶磁美術館と共同で開催し、東京の地で数多くの来館者に中国、韓国の陶磁器の真髄を堪能いただきました。安宅コレクションの保存と公開は、戦後大阪における住友グループの文化貢献活動を象徴する事業ですが、このことを東京でも広く知っていただくことができたものと考えています。

また京都では 9 月から 10 月にかけて「泉屋ビエンナーレ 2023」を開催いたしました。本展は中国古代青銅器を源流として現代にまで繋がる金工芸術の普及と振興を目的とするもので、今回は 10 名の鑄金作家を招待し、意欲的で独創的な作品を披露いたしました。さらに東京および京都の青銅器展示におきまして、2 次にわたり文化庁主催 InnovateMUSEUM 事業に参画し、地域文化交流事業を推進し、地域の芸術文化観光資源とリンクした美術館活動を行うなど、住友コレクションを代表する青銅器の積極的な普及活動に取り組みました。

このような当館の事業は、来館者、賛助会員の皆様並びに学術関係の方々の厚いご支援により成り立っております。各展覧会をサポートくださいました関係諸機関より多大なご支援を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。また京都では、大阪・関西万博開催に間に合わせるべく 2024 年 2 月から本格的なリニューアル工事に着手いたします。収蔵施設の増強や展示空間の拡大を通して、さらに充実した活動を推進する所存でございますので、引き続きのご支援、ご指導を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

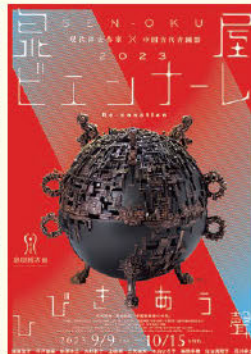
公益財団法人 泉屋博古館
理事長 奥 正 之



公開事業の概要

泉屋博古館（以下「京都」と表示することがある）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
中国青銅器の時代 第3室特集展示 青銅器になった動物たち	下記企画展 開催期間				
光陰礼讃 —近代日本最初の洋画コレクション—	3/14～5/21 (59日間)	4,293	4,687	8,980	152
歌と物語の絵 —雅やかなやまと絵の世界—	6/10～7/17 (33日間)	3,257	2,764	6,021	182
泉屋ビエンナーレ 2023 Re-sonation ひびきあう聲	9/9～10/15 (32日間)	1,879	2,208	4,087	128
表装の愉しみ —ある表具師のものがたり—	11/3～12/10 (33日間)	4,298	3,129	7,427	225
上記期間以外の入館者		12	7	19	
23年度 京都入館者計	157日	52% 13,739	48% 12,795	対前年 ▲3,030 26,534	169



〔中国青銅器の時代〕第3室特集展示「青銅器になった動物たち」
開催期間：3/14～5/21、6/10～7/17、9/9～10/15、11/3～12/10

＊ 9/9～10/15、11/3～12/10の期間で文化庁 Innovate MUSEUM 事業の支援を受け、第3室特集展示「青銅器になった動物たち」の広報を展開、各種イベントを行った。11月中旬～会期末までの約一ヶ月間の来場者数およそ 3,750 人。（上記数字に含む）

泉屋博古館東京（以下「東京」と表示することがある）

展覧会名	期間	入館者数			
		有料	優待	計	1日平均
泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅳ 不変／普遍の造形 —住友コレクション中国青銅器名品選	1/14～2/26 (38日間)	5,063	3,587	8,650	228
大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101	3/18～5/21 (56日間)	14,747	6,117	20,864	373
木島櫻谷 —山水夢中	6/3～7/23 (44日間)	12,578	4,511	17,089	388
楽しい隠遁生活 —文人たちのマインドフルネス	9/2～10/15 (38日間)	5,163	3,375	8,538	225
日本画の棲み家 —「床の間芸術」を考える	11/2～12/17 (40日間)	5,521	4,346	9,867	247
23年度 東京入館者計	216日	66% 43,072	34% 21,936	対前年 +14,287 65,008	301



入館者京都・東京合計 有料 56,811名 優待 34,731名 計 91,542名

中国青銅器の時代

会期：企画展覧会と同時開催

当館を代表する中国殷周時代の祭祀用青銅器を、名品選、青銅器の種類、特集展示「青銅器になった動物たち」、青銅文化の展開の4テーマで紹介した。うち特集展示は秋季展示において文化庁令和5年度 Innovate MUSEUM 事業の支援を受け、京都市動物園とのコラボレーションで様々なイベントを実施した。（主催：公益財団法人泉屋博古館）



展示風景

関連催事



- ・スライドトーク（京都講堂）
6月24日（32名）、7月8日（45名）
山本 堯（学芸員（京都））

スライドトーク（山本）

文化庁 Innovate MUSEUM 事業

博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信を推進し、博物館における業務の DX や社会や地域における様々な課題に対する取組への支援を行う文化庁の Innovate MUSEUM 事業のもと、「京都東山 A&S (Art and Science) プロジェクト」を実施した。



第3室特集展示「青銅器になった動物たち」は一般の来館者にも親しみやすい動物モチーフを切り口とした中国古代青銅器の特集展示を行った。おなじく東山地区に所在する京都市動物園と連携し、アートとサイエンスという視点から中国古代青銅器に関連する子供向け教育普及イベントを開催、動画制作を行って HP 上で公開した。また実際の導線としてデジタルスタンプラリーを共催し、二拠点をめぐる仕掛けを創設し人的回遊を促進した。



第3室展示風景



京都市動物園展示風景（トラ展示ブース）

・子供向け特別鑑賞会「古代の動物を探しに行こう！」

10月28日（京都市動物園、泉屋博古館青銅器館

：親子5組12名）

坂本英房氏（京都市動物園園長）

山本 堯（学芸員（京都））

京都市動物園と共同で行った子供向けの鑑賞会。

動物園園長による動物の、および当館学芸員による青銅器の解説をわかりやすく行った。



子供向け特別鑑賞会（山本）



子供向け特別鑑賞会（坂本氏）

クロストーク

「人と動物のかかわりの歴史

—中国古代の視点から—

坂本英房氏、山本 堯

Part 1 10月21日

（京都市動物園レクチャールーム・28名）

古代の青銅器にあらわされた動物モチーフを動物学の視点から繙いた。動物は動物園提供の豊富な画像をスライドで、青銅器は3Dデータを用いたARで解説した。

Part 2 11月18日

（京都講堂・45名）

Part 1で展開されたトークを受け、古代学の視点から人間の側面を繙いた。Part 1同様に豊富な画像とARを活用した。



子供向け鑑賞会ワークシート



クロストーク Part 1：京都市動物園



クロストーク Part 2：泉屋博古館

・デジタルスタンプラリー

(会場：京都市動物園、泉屋博古館青銅器館)

9月9日～10月15日、11月3日～12月10日

参加者 209 名

AR 獲得者 60 名

それぞれの会場に設置したマーカーをすべてめぐると

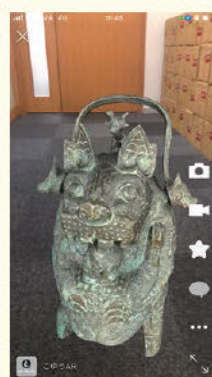
AR フォトフレームの特典が入手できるイベント。



京都市動物園ワシミズク展示ブースに設置したマーカー



スタンプラリー台紙



AR こゆう

・展示室 VR の公開



左 QR コードより視聴可能
(2024 年 3 月時点)

令和 4 年度 Innovate MUSEUM 事業実施について

・写生イベント

「#おうこく足跡探訪

みんなで歩いて描いてみよう@賀茂川」

3月11日(賀茂川北山～御薗橋界限・8名)

奥村美佳 氏 (京都市立芸術大学准教授・日本画家)

2022 年特別展「木島櫻谷一山水夢中」で実施したプロジェクト「おうこく足跡探訪」の調査報告をふまえ、櫻谷写生を追体験する写生会を賀茂川西岸にて実施した。



賀茂川写生の様子



講評会



参加者の作品

企画展 光陰礼讃 — 近代日本最初の洋画コレクション

会期：3月14日－5月21日

印象派と古典派、旧派と新派の作品が対照的に収集された経緯や特質を「光陰」ととらえながら紹介した。新規に受贈した作品2点も初公開した。（主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞）



展示風景

2020年コロナ禍で行った洋画解説の動画配信が好評であったため、展示解説を8編に分け収録、ロビー上映とSNS配信を行った（Instagram、Facebook再生合計6,030回）。



関連催事

・特別記念講演会「住友洋画コレクションの特質」

4月22日（京都講堂・37名）

三浦 篤 氏

（東京大学大学院総合文化研究科客員教授、美術史家）

西洋近代美術史、日仏美術交流史の第一人者より、明治期の西洋絵画受容の諸相と住友春翠収集洋画の史的価値についてうかがった。



特別記念講演会（三浦氏）

・スライドレクチャー「詳しくすぎる作品解説」

（京都講堂）

3月25日（41名）

4月15日（40名）

5月13日（37名）

野地 耕一郎（東京館長）



スライドレクチャー（野地）

賀茂競馬 930 年記念事業 コラボ展示

京都・上賀茂神社で毎年5月5日に行われる賀茂競馬は、平安時代・寛治7年（1093）に宮廷の年中行事が同社に移されて以来930年を迎え、その記念として同社の呼びかけによって全国各地の美術博物館にて関係作品が展示された。当館でも鹿子木孟郎の《賀茂の競馬》（株式会社三井住友銀行蔵）を展示、記念の年に花を添えた。



賀茂競馬コラボ展示

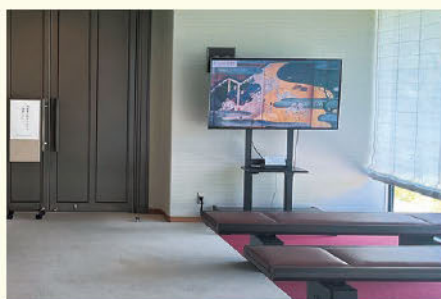
企画展 歌と物語の絵 — 雅やかなやまと絵の世界

会期：6月10日－7月17日

館蔵品より、和歌や物語といった文学を題材とする日本中近世の絵画をあつめ、優美な色彩と緻密な描写で巻物や屏風、扇などに展開するやまと絵の表現を紹介した。ロビーでは文化財専用スキャナで取得した屏風の高精度画像を用いたスライドショーを常時上映、ケース越しにはなかなか確認が難しい細部の鑑賞を促した。（主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞）



展示風景



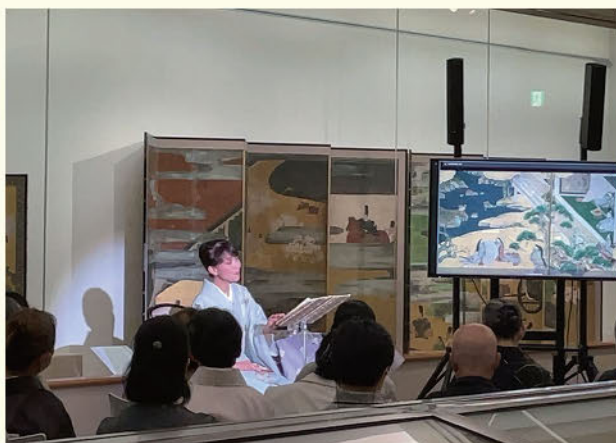


屏風細部の高精細画像を大型ディスプレイで常時上映し精緻な表現を紹介、屏風鑑賞の手がかりとした。

関連催事

- ・特別企画「京ことばで楽しむ源氏物語図屏風」

7月3日（京都企画展示室・32名） 女房語り：山下智子氏



館蔵屏風に描かれた源氏物語の名場面を古い京ことばの語りとともに鑑賞、大型モニターの高精細拡大画像を用い繊細に描かれた登場人物の機微を読み解くなど目と耳で物語の魅力にふれた。

女房語り（山下氏）

- ・スライドトーク「歌と物語の絵」

（京都講堂）

6月17日（55名）

7月1日（52名）

実方葉子（学芸部長）

- ・スライドトーク「中国青銅器の時代」

（京都講堂）

6月24日（32名）

7月8日（45名）

山本 堯（学芸員（京都）） * 4頁参照



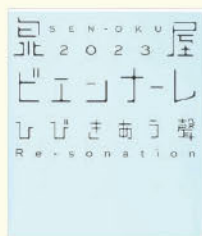
スライドトーク（実方）

泉屋ビエンナーレ 2023 Re-sonation ひびきあう聲

会期：9月9日－10月15日

中国青銅器を含む金工作品の啓蒙と、現代鋳金作家への活動支援を目的として、作家10名による新作とオリジナル作品を紹介した。芸術文化振興基金助成事業。（主催：公益財団法人泉屋博古館、住友グループ各社、京都新聞）

展覧会に併せて『泉屋ビエンナーレ 2023 Re-sonation ひびきあう聲』図録を1,200部刊行した。



展示風景

内覧会では作家自身が作品解説を行い、観覧者の理解を深めた。

関連催事

・泉屋ビエンナーレ 2023 アーティストトーク（会場：京都講堂）

9月9日（京都講堂・80名）

第一部 上田 剛 氏、梶浦聖子 氏、
久野彩子 氏、平戸香菜 氏

第二部 石川将士 氏、佐治真理子 氏、
柴田早穂 氏、杉原本三 氏、
本山ひろ子 氏

聞き手：山本 堯（学芸員（京都））

古代青銅器へのアプローチや制作手法を
フリートークの形式で述べていただいた。
質疑では苦労点などが忌憚なく語られ、
鑄造や作家を身近に感じる内容となった。

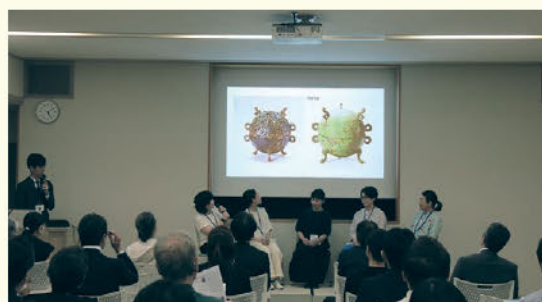


アーティストトーク（上田氏、梶浦氏、久野氏、平戸氏）

・特別招待会

9月22日（京都講堂・46名）

久野彩子 氏、佐治真理子 氏、
柴田早穂 氏、平戸香菜 氏、
本山ひろ子 氏



特別招待会（山本、久野氏、佐治氏、柴田氏、平戸氏、本山氏）

・作家による鑄物体験ワークショップ

「金属を溶かしてつくる！

オリジナル錫チャーム」

9月23日（京都講堂・19名）

佐治真理子 氏、柴田早穂 氏

鑄型の製作から参加者自身製作が行うことで
鑄造という技法への理解を楽しく深めるワー
クショップ。小学生数名も参加した。



鑄物体験ワークショップ（佐治氏）

「中国古代文字—金文—を作ってみよう！」

10月7日（京都講堂・31名）

杉原本三 氏、梶浦聖子 氏、本山ひろ子 氏

金文の制作技法を踏まえて本展のために
カスタマイズされた鑄造ワークショップ。
古代の超絶技法を追体験した。



鑄物体験ワークショップ（杉原氏）

特別展 表装の愉しみーある表具師のものがたり

会期：11月3日ー12月10日

装飾・演出から保存まで、知恵と美意識が凝縮した表具の多彩な展開と、そこにこめられた思いを探った。住友春翠と表具師井口邨僊との関わりにも注目した。一般社団法人日本アート評価保存会主催「第11回秀逸企画賞」受賞。（主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞）

展覧会に併せて図録『表装の愉しみーある表具師のものがたり』を2,200部刊行した。



展示風景

関連催事

・講演会

「大阪の表具師井口古今堂

—コレクターや画家との関わり」

11月25日（京都講堂・53名）

徳山亜希子氏（新見美術館学芸員）

船場の表具師として関西実業界数寄者の信頼を集めた井口古今堂の活動とその精神について、長年の資料調査を通じ解説いただいた。



講演会（徳山氏）

・講座 「表具師と施主の楽しい関係

—井口邨僊と住友春翠」

11月11日（京都講堂・44名）

実方葉子（学芸部長）

井口邨僊の住友家での活動を通じ、書画表装、襖など邸宅内装、画家の紹介など、近代の表具師が果たした役割を明らかにした。



講座（実方）

・スライドトーク+（プラス）

「展覧会のみどころご紹介

+ 掛軸の掛け方しまい方」

（京都講堂）

11月22日（54名）、12月2日（48名）

実方葉子

掛軸表装のみどころや表具師の働きについてスライドで解説するとともに、掛軸の取扱いを動画を用いて解説。希望者には実技指導を行った。



スライドトーク+（実方）

HARIO CAFE 特別出店

11月25日・26日の2日間、東京館併設の HARIO CAFE が「HARIO CAFE Weekend @泉屋博古館」として特別出店した。告知は公式サイトと SNS、美術館外周と哲学の道への看板掲出のみであったが、2日で100人超の利用があった。



泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展Ⅳ

不変／普遍の造形 — 住友コレクション中国青銅器名品選

会期：1月14日－2月26日

東京館のリニューアルオープンにあわせて、住友コレクションを代表する中国青銅器の名品を一堂に展示した。文化庁令和5年度 Innovate MUSEUM 事業の支援を受け、最新のテクノロジーを用いた現代的なアプローチを展開した。中国古代青銅器を収蔵する港区の美術館や大学と連携してイベントやワークショップを開催し、中国古代青銅器の魅力をわかりやすく発信した。（主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社）



展覧会に併せて一般書籍『太古の奇想と超絶技巧 中国青銅器入門』を新潮社より刊行、200部買取。

文化庁 Innovate MUSEUM 事業

(1) 中国青銅器の展覧会「不変／普遍の造形」展企画・開催



(2) 3D スキャンや高精細撮影を用いたデジタルコンテンツの作成・公開

殷周青銅器の文様や可動機能を紹介する新作映像2編を制作、会期中講堂やサイネージで上映した。展覧会終了後は上記映像ならびに展覧会開催時の展示室内を360°画像に記録した「展示室VR」をオンライン公開した。



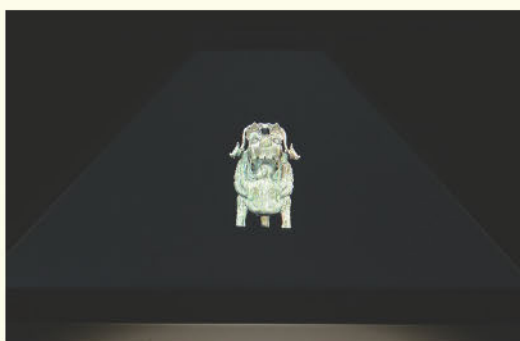
左QRコードより視聴可能
(2024年3月時点)



展示室VR



解説映像「泉屋博古館 中国青銅器」2編（展示室VRとも制作：泉屋博古館、Produced by SABIA）



虎貞ホログラムの展示



解説映像上映の様子

(3) 根津美術館、松岡美術館と3館連携イベントを実施

「港区内3館をめぐる中国古代青銅器デジタルスタンプラリー」

1月14日～2月5日

参加者 178名

3館達成者 53名

3D青銅器ARを作成して
スタンプラリー3館達成賞
として使用した。



スタンプラリー広報ビジュアル



ARしきょうそん

・トークイベントⅠ

「港区青銅器サミット2023」

1月21日（東京講堂・47名）

黒川裕子氏（松岡美術館副館長）

玉井あや氏（根津美術館学芸員）

山本 堯（学芸員（京都））

司会：アートテラー・とに〜氏

港区に所在し中国古代青銅器を収蔵する美術館
3館による、各館の青銅器コレクション紹介や
青銅器の魅力を語り合うクロストーク。



トークイベントⅠ
（左からとに〜氏、山本、黒川氏、玉井氏）

(4) 東京学芸大学との連携による公開講座

・トークイベントⅡ

「謎の古代文字 一金文鑑賞入門」

1月28日（東京講堂・46名）

下田 誠氏

（東京学芸大学先端教育人材育成推進機構准教授）

佐々木研太氏（東京学芸大学個人研究員）

山本 堯

青銅器に鑄込まれた文字「金文」の鑑賞入門。
古代の人々の思いに触れるきっかけ作りとなる
講座となった。



トークイベントⅡ（下田氏）

・ワークショップ

「鑄物体験 一古印をつくろう」

1月29日（東京講堂・39名）

新郷英弘氏（芦屋釜の里資料館館長）

樋口陽介氏（芦屋鑄物師）、山本 堯

好きな図柄や文字を削り、融かした錫を流し込んで
オリジナルの方印をつくる人気のワークショップ。



ワークショップ（樋口氏）

関連催事

・記念講演会

「住友青銅器コレクションの名品について
—最新の科学技術による青銅器の構造探訪—」

1月14日（東京講堂・41名）

廣川 守（館長）

最新の科学技術を用いた研究成果も用いながら、
住友コレクション中国青銅器の名品を紹介。



記念講演会（廣川館長）

・連続講演《アート With》レクチャー

「文化財とデジタル技術」

1月20日（東京講堂・22名）

谷口正明氏（株式会社サビア取締役）

高精細・3D スキャン等の文化財とデジタル
技術の最前線についてご講演いただいた。



アート With（谷口氏）

・スライドトーク（東京講堂）

2月10日（35名）、2月24日（43名）

山本 堯



スライドトーク（山本）

特別展 大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101

会期：3月18日－5月21日

国際的にも知られる「安宅コレクション」の東洋陶磁はその散逸の危機に際し、住友グループにより大阪市へ寄贈され、現在は大阪市立東洋陶磁美術館に所蔵される。安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁の中から珠玉の名品101件を紹介した。(主催：公益財団法人泉屋博古館、住友グループ各社、大阪市立東洋陶磁美術館、日本経済新聞社)



展示風景



関 連 催 事

・ 記念講演会

「大阪市立東洋陶磁美術館と安宅コレクション」

3月18日（東京講堂・45名）

守屋雅史 氏（大阪市立東洋陶磁美術館館長）

大阪市立東洋陶磁美術館設立のもととなった
安宅コレクションについてご講演いただいた。



記念講演会（守屋氏）

・ 講演会「安宅コレクション中国陶磁 10 選」

4月8日（東京講堂・43名）

小林 仁 氏

（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理）

大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の安宅コレクションの
名品から、中国陶磁の珠玉の10点を見所とともに
ご紹介いただいた。



講演会（小林氏）

・ 講演会「安宅コレクション韓国陶磁 10 選」

5月13日（東京講堂・43名）

鄭 銀珍 氏

（大阪市立東洋陶磁美術館主任学芸員）

大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の安宅コレクションの
名品から、韓国陶磁の珠玉の10点を見所とともに
ご紹介いただいた。



講演会（鄭氏）

・ 連続講演《アート with》レクチャー

「展覧会の遊び、記憶装置としての図録
その存在と深化について」

4月14日（東京講堂・35名）

鎌田恵理子 氏（青幻舎 社長付編集委員）

展覧会図録編集の仕事、「名品選99」等図録制作の
舞台裏について、編集者の側から詳しくお話しいた
だいた。



アート with（鎌田氏）

・レクチャー+対談

「加彩婦女俑の魅力にせまる」

4月9日（東京講堂・40名）

小林 仁氏

（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理）

坂爪康太郎氏（陶芸家）

大阪市立東洋陶磁美術館の小林氏と、“加彩婦女俑レプリケーション”を制作された陶芸家の坂爪氏それぞれのレクチャーと対談から「加彩婦女俑」の魅力にせまるトークイベント。



レクチャー+対談（坂爪氏、小林氏）

・ヴァーチャルろくろ体験

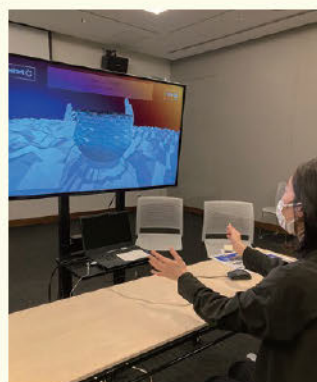
3月22日、31日、

4月4日、11日、12日、18日、19日、25日、26日、

5月2日、9日、10日（東京講堂・計187名）

自分の手で器の3Dモデルが作れるヴァーチャルろくろシステム「Roquro」の最新プログラム（大阪市立東洋陶磁美術館監修）の体験コーナーを設置。

油滴天目の器をARで作り、持ち帰りができる体験を提供した。



ヴァーチャルろくろ体験

・スライドトーク

3月23日（43名）

4月20日（45名）

森下愛子（学芸員（東京））

5月11日（55名）

竹嶋康平（学芸員（京都））



スライドトーク（上：森下、下：竹嶋）



展覧会に併せて図録『大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選 101』を青幻舎より刊行、4,000部買取。

特別展 木島櫻谷 一山水夢中

会期：6月3日 - 7月23日

近代京都の日本画家木島櫻谷が生涯描き続けた山水画に注目、その底流にある精神世界を探った。制作の根本となるおびたしい風景写生のデータベースを公開した。(主催：公益財団法人泉屋博古館、公益財団法人櫻谷文庫、BSフジ、ライブエグザム)



写生帖データベース
公開の様子

展示風景



関連催事

・ 記念講演会「木島櫻谷の軌跡・駅路之春の奇跡」

6月3日（東京講堂・50名）

阿部亜紀氏（（一財）福田美術振興財団学芸員）

櫻谷芸術のエッセンスが詰まった代表作《駅路之春》
（福田美術館蔵）を詳しくご紹介いただいた。



記念講演会（阿部氏）

・ 講演会「木島櫻谷の生涯と山水画」

6月25日（東京講堂・46名）

実方葉子（学芸部長）

木島櫻谷が生涯かけて描き続けた山水画について、
長年にわたる写生帖の調査研究をふまえて紹介。



講演会（実方）

・ シンポジウム「櫻谷山水画のレシピ」

7月8日（東京講堂・48名）

基調講演：実方葉子

登壇者：竹浪 遠氏（京都市立芸術大学准教授）

森 光彦氏（京都市京セラ美術館学芸員）

野地耕一郎（東京館長）

モデレーター 椎野晃史（学芸員（東京））

櫻谷山水画の豊かな表現について、中国絵画・京都画壇
・近代絵画等、各分野の専門家が多角的な視点から掘り
下げ、講演とディスカッションを行った。



シンポジウム（竹浪氏、森氏、野地）

・ 連続講演《アート with》レクチャー

「美術雑誌の仕事」

7月14日（東京講堂・41名）

柳田康弘氏（一枚の繪 編集者）

美術雑誌とその編集の仕事について、美術雑誌
『一枚の繪』の編集者の柳田氏にご紹介いただいた。



アート with（柳田氏）

・ スライドトーク

6月17日（57名）、7月15日（49名） 椎野晃史

7月7日（23名） 野地耕一郎

企画展 楽しい隠遁生活 — 文人たちのマインドフルネス

会期：9月2日 - 10月15日

厳しい現実から逃避するための「過激な」隠遁から、田舎暮らしのスローライフを求める「楽しい」隠遁まで、中国と日本の文人画を中心に多種多様な隠遁スタイルが見いだせる絵画を紹介した。（主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社）

特集展示：住友コレクションの近代彫刻

住友家は別子開坑二〇〇年記念事業の一環として、明治33年に楠公像の献納を行う。東京美術学校彫刻科教授である高村光雲の指揮下で制作された楠公像を中心に住友コレクションの近代彫刻作品を紹介した。



展示風景

関連催事

・スライドトーク（東京講堂）

9月2日（56名）、9月16日（57名）、

9月30日（61名）

野地耕一郎（東京館長）



・記念講演会「中国の隠遁思想」

9月18日（東京講堂・55名）

大木 康 氏（東京大学東洋文化研究所教授）

文人の憧れ「隠遁生活」の根源を辿り、その根源となる中国の隠遁思想についてご講演いただいた。



記念講演会（大木氏）

・記念講演会「住友コレクションの近代彫刻」

10月7日（東京講堂・45名）

野城今日子 氏（渋谷区立松濤美術館学芸員）

特集展示「住友コレクションの近代彫刻」の開催に併せ、館蔵近代彫刻コレクションの内容や特徴についてご講演いただいた。



記念講演会（野城氏）

・連続講演《アート with》レクチャー

「ミュージアムグッズ愛好家」のオシゴト」

9月15日（東京講堂・18名）

大澤夏美 氏（ミュージアムグッズ愛好家）

ミュージアムグッズを通じて博物館の魅力を伝える
“ミュージアムグッズ愛好家”の幅広い「オシゴト」
についてお話を伺った。



アート with（大澤氏）

・七弦琴コンサート「文人の心」

10月3日（東京ロビー・45名）

演奏：武井欲生 氏（(一社)日本古琴振興会代表）ほか

隠遁暮らしの愉しみのひとつ「音楽」。中国古典楽器の代表的な存在である古琴（七弦琴）の調べを展示とともに楽しむコンサートとなった。



七弦琴コンサート（武井氏ほか）

・特別講座「現代の隠遁生活を豊かにする“珈琲”」

10月13日（23名）

松尾成竜 氏（HARIO CAFE 泉屋博古館東京店 店長）

野地耕一郎

株式会社 HARIO 協力のもと「現代の隠遁とコーヒー」について学芸員とのクロストークの後、美味しい珈琲の淹れ方について実演を交えてお話を伺った。

*当初9月8日開催予定であったが台風接近に伴い中止となり、内容等を変更して開催した。



特別講座（松尾氏、野地）

特別企画展 日本画の棲み家 —「床の間芸術」を考える

会期：11月2日 - 12月17日

展示会場で不特定多数に鑑賞されるのとは異なる、日本画の底流に確かに位置していた邸宅の座敷を飾る「床の間芸術」の魅力とその行方を紹介した。また展示会に併せてパンフレット『床の間芸術を考える』を1,000部刊行した。一般社団法人日本アート評価保存会主催「第11回秀逸企画賞」受賞。（主催：公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社）

特集展示：住友と床の間

住友家の正月飾りである小鉾、吹炭、床尻銅の床飾り再現を中心に、江戸時代から明治時代における住友家の床の間に注目した。

展示風景



パンフレット『床の間芸術を考える』を1,000部刊行した。

関連催事

・記念講演会

「家出した日本画に、失墜した床（トコ）
ーその封建的性格から不要論が聞こえ出すまで」

11月18日（東京講堂・51名）

本橋 仁 氏（金沢21世紀美術館レジストラー）

日本画の「棲み家」であった床の間をテーマに、建築史の側から住宅の近代化と床の間の変遷についてご講演いただいた。



記念講演会（本橋氏）

・記念講演会

「江戸時代住友家の「道具」一床の間の飾り物」

12月2日（東京講堂・49名）

海原 亮 氏（住友史料館主席研究員）

特集展示「住友と床の間」の開催記念講演会。
江戸時代の住友家の床の間飾りについて史料を繙き解説いただいた。



記念講演会（海原氏）

・連続講演《アート with》レクチャー

「表装と文化財ー「選定保存技術」入門」

11月10日（東京講堂・35名）

中野慎之 氏（文化庁文化財第一課絵画部門文化財調査官）

「表装」を中心に、文化財を支え、その存続を左右する重要な技術を守り伝えるための「選定保存技術」についてご紹介いただいた。



アート with（中野氏）

・座談会「床の間芸術を考える」

12月10日（48名）

登壇者：小林明日香 氏、澁澤 星 氏、水津達大 氏、
菅原道朝 氏、長澤耕平 氏、松平莉奈 氏
（以上出品作家）

野地耕一郎（東京館長）

椎野晃史（主任学芸員（東京））

「日本画の棲み家」展出品作家と担当学芸員が作品紹介、併せて「床の間芸術」について考える座談会。



座談会（左から野地、長澤氏、水津氏、澁澤氏、菅原氏、松平氏、小林氏）

・スライドトーク

11月25日（45名） 椎野晃史

* 12月9日は都合により中止



スライドトーク（椎野）

2023 年度の主な調査研究事業

1. 泉屋博古館紀要の執筆・編集

「泉屋博古館紀要」第 39 巻を 12 月に刊行した。

本号は小南一郎論文、宮本一夫氏論文、廣川守・三船温尚氏論文、荒川正明氏・濱岸勝義氏論文、山本堯論文の計 5 編を掲載した。

上記 5 編のうち、荒川・濱岸両氏論文は泉屋博古館にて開催した特別対談の筆記録となっている。



『泉屋博古館紀要』第 39 巻

2. 館藏品基礎調査研究

「日本近代銅器の基礎的調査研究」

(廣川・山本・竹嶋)

現在受託中の日本近代銅器と蠟型 / 石膏型資料について、写真撮影、法量計測など基礎情報を取得し、そのうち蠟型について種別ごとの分類を実施した。



龍の蠟型

「茶道具の調査研究」(森下)

館蔵の茶道具について、新収品を中心に、①仕覆などの付属品の再調査、②購入記録並びに茶会記との照合を行い江戸期から大正期に至る茶道具のコレクション形成史をまとめた。
(月刊『淡交』(淡交社)にて成果を連載)



月刊『淡交』2023 年新年号 (淡交社)

「館蔵の洋食器を中心とした近代洋食器研究」(森下)

明治時代以降、洋食器文化の輸入により日本各地で洋食器が生産されるようになり、住友コレクションには住友家で使用されたディナーセットなどがみられる。当時の国内における洋食器の供給ならびに受容者について継続して調査を実施した。

「館蔵書画の表装裂のデータベース作成」(実方)

表装裂の材質・組成・文様などの基礎調査を専門家の協力を得て進めた。伝来や装丁者など表装の成り立ちの調査も行い、展覧会及び図録で公開。



《佐竹本》の表装裂

「館蔵洋画の調査研究」(野地)

館蔵の洋画・彫刻の分野では、収蔵されながら見落とされてきた河久保正名や仙波均平等に優れた作家・作品の再調査を行い、行跡に関して新たな情報を得ることができた。また岸田劉生など近年の研究成果を踏まえ多視点からの見直しについては、継続的に研究する。

「館蔵日本画及び洋画の基礎研究」(椎野)

館蔵の日本画及び洋画に関して、引き続き同時代資料の収集を行い、展覧会出品歴等の基礎情報を確認する。特に明治～大正時代に描かれた日本画を取り上げ、作品が受容された場(近代の床の間など)をめぐる問題を検討した。

「泉屋博古館記録資料のアーカイブ化」(竹嶋)

館の歴史を物語る設立以来の資料の整理に着手した。具体的には映像資料、建築資料のデジタル化。改修工事中にあわせて不要となった建具などの資材も資料として保管を開始した。

青銅器館と同じ設計者(小角亨氏)による美術館施設である倉吉博物館へ視察調査を実施。外観及び内装意匠など類似点を見出すことができた。



倉吉博物館外観

「館蔵中国陶磁の基礎研究」(竹嶋)

館蔵の中国陶磁の基本調査および箱書の記録を行う。また、過去の茶会記とりわけ煎茶会記に記録された中国陶磁のリストアップも開始した。改修工事終了後には専門家の協力を得て、技法や産地、時代的特徴も明らかにし、中国陶磁を主テーマとした館蔵品展示を将来開催することを視野に入れる。

「館蔵竹工芸の基礎研究」(竹嶋)

館蔵の竹工芸(花入、茶杓、蓋置)や籐工芸(花籠)、瓢工芸(花入れ)等の基本調査および箱書の記録を行う。改修工事終了後には、また専門家の協力を得て、技法や時代の特徴も明らかにし、竹工芸に関する館蔵品展を将来開催することを目指す。

「美術品収集経緯研究」(全員)

明治以後の住友家購入台帳のうち、昭和戦前期の資料検討とデータベース化を進めた。

3. 専門研究(館蔵品関連分野)

「中国先秦時期の社会と文化」(小南)

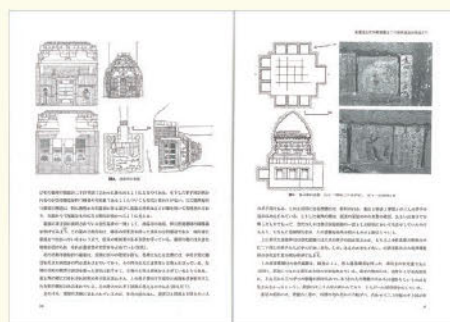
中国先秦時期(とりわけ二里头文化期から秦漢帝国の成立まで)の社会制度や思想文化になどについて、出土文物と文献資料とを相互に参照し、その中国的特質の形成について検討する。研究成果の一部として論文「殷墟卜辞と商の王権」を『巫・占の異相 — 東アジアにおける巫・占術の多角的研究』(日文研研究報告書(志学社)2023年8月)に載せた。



『巫・占の異相』(志学社)

「中国近世の文芸と民衆信仰」(小南)

中国近世の民衆文芸について、文献資料と実地調査とにもとづき、民衆的な信仰と生活倫理について探求する。現在、コロナ禍のため現地調査が不可能であるため、壁画墓の画像を資料として、二十四孝觀念の時代的な変貌を追求し中国近世倫理の形成について考える。研究成果として、論文「宋遼金元代の壁画墓と二十四孝説話の形成(下)」を『泉屋博古館紀要』第39巻(2023年12月)に載せた。



『泉屋博古館紀要』第39巻に掲載の論文

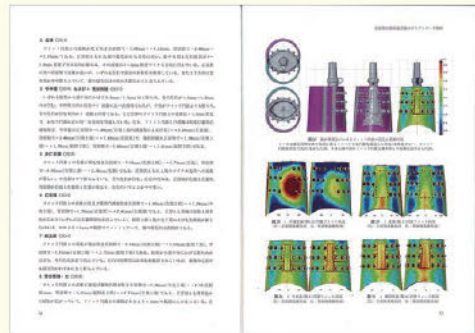
「中国古代贈与儀礼の研究」(山本)

中国古代におこなわれた贈与儀礼について、古典文献に加えて新出の考古資料・文字史料も踏まえつつ、その歴史的展開と国家形成とのかかわりについて検討する。

4. 他研究機関との共同調査研究

「中国青銅器の高精度三次元計測データの解析」
(廣川)

館蔵の青銅彝器および青銅鏡について、富山大学芸術文化学部と共同で高精度三次元計測を富山大学芸術学部と共同で実施した(2015年より開始、23年完了)。それにより取得したデータのうち、青銅甬鐘について断面形状および全体厚偏差分布の解析を実施し、その成果を『泉屋博古館紀要』第39巻で公開した。



『泉屋博古館紀要』第39巻に掲載の論文

「中国古代青銅器製作技術の研究」(山本・廣川)

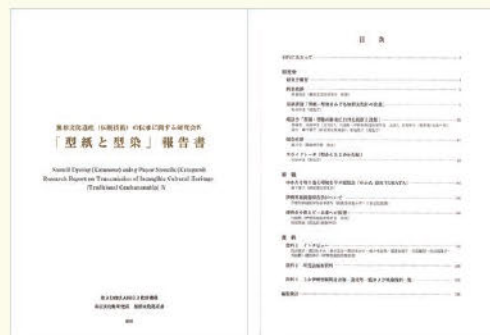
当館所蔵青銅器及び中華民国国立中央研究院歴史語言研究所所蔵青銅器及び鑄型を調査対象として、殷代から戦国時代にかけての青銅彝器製作技術の解明を目的とした研究を、歴史語言研究所、芦屋釜の里と共同で実施する。23年度は共同研究の成果も盛り込み、科研費(19K13411 研究代表者: 山本堯)の研究成果報告書を刊行した。また鑄造実験およびその状況を記録する4K動画撮影を実施した。



研究成果報告書

「近代染織史の基礎資料研究」(森下)

館蔵の染織作品を基本資料として、近代の染織品における様式変遷ならびに技法を比較し、東京文化財研究所無形文化遺産部の客員研究員として共同研究を行う。2023年3月に「型紙と型染」研究会の報告書(東京文化財研究所)を刊行した。



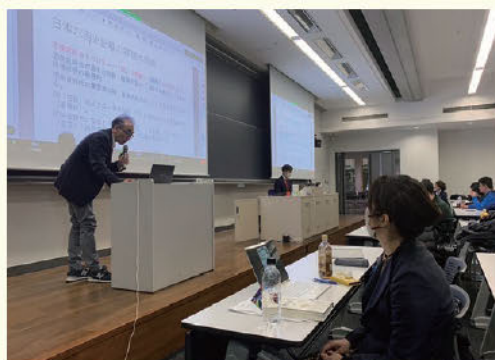
「型紙と型染」研究会報告書(東京文化財研究所)

「日本茶道文化史における中国金工品の受容と展開」(山本)

日本中近世の茶道具の中には、その淵源を中国青銅器にまで辿れるものが少なくない。これまで茶道文化史において正当な位置づけがなされていない金工品を中心に実見調査等を行い、唐物受容の新たな一側面を探っていく。茶道資料館・芦屋釜の里との共同調査研究。今年度は野村美術館にて実施した調査の成果を、同館研究紀要の掲載論文として執筆した(未刊)。

「古代東アジアの祥瑞と王権—漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究—」（山本）

東アジア古代の王権と密接な関係を有する祥瑞の図像のうち、漢唐間に成立した瑞獣に焦点を当て、学際的アプローチによってその歴史的展開を明らかにする。今年度は青山学院大学にて公開シンポジウム「中国古代の祥瑞文化と図像」を開催し、研究成果の一部を『泉屋博古館紀要』第39巻（山本論文）に掲載した。（二松学舎大学研究代表科研課題 JP22H00620 の分担研究）



公開シンポジウムの様子

「図像・出土器物・文献資料による古代東アジアにおける饗宴システムの復元と比較研究」（山本）

東アジア古代国家の成立と深く関わる饗宴システムについて、出土資料・文字史料の両面からその成立・展開過程を追い、東アジア世界へ拡散する様相を広域的な比較検討によって明らかにする。今年度は殷周時代の酒器の命名をめぐる問題を手がかりに、飲食儀礼の変革について論文（未刊）を執筆した。（大手前大学研究代表科研課題 JP22H00729 の分担研究）

「木島櫻谷の調査研究」（実方）

櫻谷文庫所蔵資料のうち、風景写生帖（大判）40冊の全頁を撮影、データベースとして公開した（文化庁令和4年度 Innovate MUSEUM 事業）。また櫻谷宛書簡類の整理と画像スキャンをすべて終えた。



左 QR コードより視聴可能
(2024年3月時点)



写生帖データベース

「展覧会芸術研究」（椎野）

近代日本画における主題選択や表現様式を変容させた展覧会の制度に注目し、同時代資料から「展覧会芸術」という言葉の使用範囲と用法を探った。

「吉田ふじを基礎研究」（椎野）

洋画家・吉田博の妻であり、女流洋画家の先駆けでもある吉田ふじをについて、遺族のもとに遺された基礎資料の整理を行った。

2023 年度の美術品収集

1. 美術品受贈

以下 174 点の作品を受贈した。

《気吹親子亀 銘九嶋金重》ほか（67 点）銅花器 近世近代
 《蒔絵牛車行列図八角寸胴》ほか（25 点）象彦ほか
 漆工・陶磁器 近世近代
 （以上、大郷理明様ご寄贈）

《染付跳鯉文大皿》ほか（瀬川竹生コレクション 80 点）
 陶磁器 江戸後期
 （以上、瀬川克昌様ほかご寄贈）

《草刈》矢崎千代二 大正 2（1913）年
 《夏の浜辺》小林真二 大正 2（1913）年
 （以上、一般社団法人大阪銀行協会様ご寄贈）



《気吹親子亀 銘九嶋金重》



《染付玉取龍文大皿》

2. 美術品購入

下記 3 点の作品を購入した。

《雀猫図》橋本雅邦 明治 20 年前後（19 世紀）
 《色絵桜花文花瓶》幹山伝七 明治時代
 《七宝寿老人小箱》林谷五郎（下絵：住友春翠） 大正時代



《雀猫図》橋本雅邦



《色絵桜花文花瓶》幹山伝七



《夏の浜辺》小林真二



《七宝寿老人小箱》林谷五郎（下絵：住友春翠）

2023 年度の美術品修復

1. 青銅器

・《冊爵》

脚の亀裂を修復した。

当初より脚の一本が折れており、後世の修復によって簡易的に処置がなされていたのみであったが、今回の修復で完全に接着した。



修復前



脚折れの状態

2. 仏教美術

・重要文化財《木彫阿弥陀如来坐像》

本像は、像内背部の墨書により大治5年（1130）の制作であることが判明しており、平安時代後期彫刻の基準作例として古くより認知されてきた重要な作品である。

またもとは河内国井深の西恩寺に伝来したという謂われも詳細不明ながら存在し、伝や信仰圏の観点からも今後の研究が待たれる作品である。しかしながら、背板の縁や本体の背板に隣接する部分を中心に虫蝕や経年による朽損が目立ち、さらに後補ではあるが彩色箇所が浮き上がりが多々見受けられ、このままでは剥落の危険性が高い状況にあった。また、前回の本格的修理時に注入された充填剤の劣化が深刻であった。そこで令和4年6月から令和6年3月にかけて、公益財団法人美術院によって本像寄託先の奈良国立博物館内修理所にて保存修復事業を行った。なお本事業は、文化庁ならびに京都府、公益財団法人住友財団より助成補助を受けて実施された。



後補彩色層の剥落止めを行う



完成後の全景（正面）

3. 茶道具

野々村仁清《唐物写十九種茶入》(十九種のうち) 仕覆 3 件 (計 500 千円)

①《餌蘿 (えふご)》仕覆・茶地回紋横縞文紹巴



つがりが切れて
緒が外れている。

餌蘿・茶地回紋横縞文紹巴仕覆 修復前



修復後

元々付いていた緒が紫の焼けた色であった。元の緒を使用するためには、つがりのみを同色に染める必要があった。しかし同色に染めることが難しく、緒とつがりの色を合わせるため、新たに糸を染め、短緒、つがりとも作成し取り付けた。

②《樽》仕覆・白地縦縞文変わり錦



つがりは切れている部分
があり、縦縞茶地部分が
欠損している。また、袋
上部が傷んで切れている。

樽・白地縦縞文変わり錦仕覆 修復前



修復後

欠損位置に合わせて裂を貼った雁皮紙をしょうふ糊を用いて表地に貼付した。元々付いていた短緒を使用するため、糸を同色に染め、つがりを作成した。

③《鶴首》仕覆・紅地花唐草文緞子



短緒とつがりをはずした
ところ。正面の表地が
傷み裂けている。

鶴首・紅地花唐草文緞子仕覆 修復前



修復後

表地が傷んでいたため、裂けている個所を雁皮紙を用い、しょうふ糊で貼付した。元々付いていた緒が紫の焼けた色であった。緒とつがりの色を合わせるため、新たに糸を染め、短緒、つがりとも作成した。

4. 絵画

・尾竹国観作《絵踏》

完全なマクリの状態でご寄贈を受けたため、画面のクリーニングや剥落止めを実施、亀裂部は補絹・補彩を行った。また新規裏打ちにより皺を解消し、下地・縁裂・縁木を新調した。(5,227 千円)



修復後



修復前



修復後



新規縁裂、椽木

・縁裂（大縁、小縁）

大縁：浅葱地孔雀草紋金欄

小縁：金茶地造土紋金欄

・椽木（色付け拭き漆仕上げ）

2023 年度の収蔵品貸出

原在中・在明《春花図》(京都)

総合展示「原派、ここに在り—京の典雅—」(京都文化博物館:2023年2月18日～4月9日)

《線刻仏諸尊鏡像》、《六鈴獸形鏡》(京都)

「いにしえが、好きっ!—近世好古図録の文化誌—」(国立歴史民俗博物館:2023年3月7日～5月7日)

椿椿山《玉堂富貴・遊蝶・藻魚図》3幅(京都)

「椿椿山展」(板橋区立美術館:2023年3月18日～4月16日)

《丹波茶入 銘山桜》(東京)

「丹波の茶道具」(兵庫陶芸美術館:2023年3月18日～5月28日)

《青貝芦葉達磨香合》、千宗旦《青貝芦葉達磨香合添状》(東京)

四百年遠忌記念「大名茶人 織田有楽斎」(京都文化博物館:2023年4月22日～6月25日、サントリー美術館:2024年1月31日～3月24日)

能管 銘《薄雲》(東京)

国立能楽堂企画展「楽器名品展」(国立能楽堂1階資料展示室:2023年9月6日～11月17日)

モーリス・ブリアンション《海辺》、小杉小二郎《ピンとサクランボ》(東京)

「新たな時代のエトランゼーバリーへ渡った日本人画家たち 1950 - 70s—」(小杉放菴記念日光美術館:2023年9月16日～11月19日)

《伊勢物語図屏風》(京都)

特別展「宗達—物語の風景 源氏・伊勢・西行」(和泉市久保惣記念美術館:2023年9月17日～11月12日)

京都市指定文化財《二条城行幸図屏風》、宮川長春《遊女図巻》(京都)

特別展「人間讃歌—江戸の風俗画」(徳川美術館:2023年9月24日～11月5日)

重要文化財 八大山人《安晚帖》(京都)

特別展「いぬねこ彩—東アジアの犬と猫の絵画—」(大和文華館:2023年10月7日～11月12日)

重要文化財《佐竹本三十六歌仙絵切 源信明》、重要文化財《上疊本三十六歌仙絵切 藤原兼輔》、重要文化財《是害房絵巻》、重要美術品《貫之集下 石山切》藤原定信(以上京都)

特別展「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」(東京国立博物館:2023年10月11日～12月3日)

渡辺花仙《四季花鳥画帖》(東京)

「決定版! 女性画家たちの大阪」(大阪中之島美術館:2023年12月23日～2024年2月25日)

2023 年度外部機関協力・広報

1. 職員による外部講演

廣川 守

- 11月3日 文理融合シンポジウム一般講演「中国古代青銅器の科学調査」(於：国立科学博物館／オンライン併用)

実方葉子

- 9月9日 視覚文化連続講座講演「絵を装う、暮らしを彩る ―表具からみる住友コレクション」(於：京都新聞文化ホール)
11月7日 住友クラブ講演会「住友コレクションの掛け軸 ―表装を愉しむ―」(於：住友クラブ)

山本 堯

- 12月17日 二松学舎大学科研グループ公開シンポジウム「中国古代の祥瑞文化と図像」コメントーター (於：青山学院大学)

竹嶋康平

- 7月21日 金曜会講演会「住友グループ寄贈 安宅コレクション ―その世界的名声と魅力」(於：住友クラブ)

野地耕一郎

- 1月22日 アンペルギャラリー「あいおいニッセイ同和損保「椿絵」コレクション―光り輝く明日へ―」展 ギャラリートーク
4月9日 『本と絵画の800年』展講演会 (於：練馬区立美術館)
7月1日 「住友コレクション名品選 フランスと日本近代洋画」展記念講演会「モネからはじまる住友洋画物語 ―近代日本最初の洋画コレクション」(於：大分県立美術館)
9月8日 「住友コレクション名品選 フランスと日本近代洋画」展ギャラリートーク (於：鳥根県立美術館)
9月9日 「住友コレクション名品選 フランスと日本近代洋画」展記念講演会「モネからはじまる住友洋画物語 ―近代日本最初の洋画コレクション」(於：鳥根県立美術館)

椎野晃史

- 2月23日 『大阪の日本画』展 講演会「大阪日本画のポテンシャル」(於：大阪中之島美術館)
6月23日、7月21日 創企舎ソフィ連続講座「狩野派のおわり、日本画のはじまり」

2. 外部機関への協力：大学への出講

山本 堯

立命館大学「世界の考古学・文化遺産 (L)」 2023年9月～2024年3月

野地耕一郎

成城大学「博物館実習 (美術史)」 「日本美術史研究 I A」 2023年4月～2024年3月

3. 近隣美術館・施設との連携

(京都)

- ・東山高校社会科授業 見学受入 (6/22「歌と物語の絵」展 65名)
- ・京都市動物園と連携し「動物学×古代学」の観点からクロストーク、特別鑑賞会、デジタルスタンプラリーなど共催イベントを多数実施(「中国青銅器の時代」第3室特集展示 青銅器になった動物たち展:文化庁令和5年度 InnovateMUSEUM 事業)
- ・関西の茶に関わる美術館と博物館9館(京都国立博物館、樂美術館、湯木美術館、野村美術館、北村美術館、逸翁美術館、中之島香雪美術館、滴翠美術館)と相互広報及び相互割引を実施(表装展)
- ・野村美術館と「京都東山 美術館さんぽ」を共催し、相互広報及び相互割引を実施(ビエンナーレ展、表装展)

(東京)

- ・「ぐるっとパス 2023」継続加盟
- ・「港区ミュージアムネットワーク」継続
- ・「THE TOKYO PASS」新規加盟(9月より)
- ・港区立麻布小学校 見学受入(1/24・26「不変/普遍の造形」展 2・3年生 計116名)
- ・根津美術館・松岡美術館との連携イベント「港区青銅器サミット 2023」と「港区内3館をめぐる 中国古代青銅器デジタルスタンプラリー」実施(「不変/普遍の造形」展:文化庁令和5年度 Innovate MUSEUM 事業)
- ・文化庁こども霞が関見学デー 京都本館と共同で博物館支援室ブースへの出展(8/2・3 青銅器ハンズオン、3D データ展示)
- ・ARK Hills Music Week 2022 参加
(10/3 七弦琴コンサート)
デジタルスタンプラリー MusicWalk! 参加



こども霞が関見学デー

4. 広報活動

・京都:新聞、テレビ等を通じての広報

「光陰礼讃—近代日本最初の洋画コレクション」展(主催 日本経済新聞・京都新聞)

- | | | |
|-------|--------|-------------------|
| 2月14日 | 京都新聞朝刊 | 社告 |
| 3月6日 | 京都新聞朝刊 | 情報ワイド |
| 3月12日 | 京都新聞朝刊 | 特集紙(全10段カラー) |
| 3月12日 | 日経新聞朝刊 | 社告/REVIVE2月号 |
| 3月12日 | 日経新聞夕刊 | 広告(有料出稿・半5段モノクロ) |
| 3月14日 | 朝日新聞夕刊 | 表組み記事 |
| 3月15日 | 京都新聞朝刊 | 開幕記事 |
| 3月25日 | 京都新聞朝刊 | 美術欄/タブロイド Irumiru |
| 3月27日 | 京都新聞朝刊 | 情報ワイド |
| 4月4日 | 日経新聞夕刊 | 広告(有料出稿・半5段モノクロ) |
| 4月16日 | 京都新聞朝刊 | 広告(全5段カラー) |

「歌と物語の絵 ―雅やかなやまと絵の世界」展（主催 京都新聞）

- 1月4日 京都新聞朝刊「本年の主催事業特集」
- 5月16日 京都新聞朝刊 社告
- 5月27日 産経新聞朝刊 広告（有料出稿・大阪市内版半5段カラー）
- 6月1日 産経新聞朝刊 広告（有料出稿・北摂版、北河内版半5段カラー／大阪市内版全2段カラー）
- 6月3日 京都新聞夕刊 社告
- 6月8日 京都新聞朝刊 特集紙（全10段カラー）
- 6月9日 京都新聞夕刊「くらしインフォ」／タブロイド Irumiru
- 6月9日 京都新聞朝刊 展覧会情報
- 6月10日 KBS 京都放送「京都新聞ニュース」11:55～、17:55～
- 6月16日 産経新聞朝刊 広告（有料出稿・北河内版半5段カラー）
- 6月24日 京都新聞朝刊 開幕記事
- 6月25日 京都新聞朝刊 情報ワイド（全10段カラー）
- 6月28日 京都新聞朝刊 広告（全5段カラー）
- 6月30日 産経新聞夕刊「プレミアム+」
- 6月30日 朝日新聞朝刊 広告（有料出稿・大阪市内版半5段モノクロ）
- 7月2日 NHK E テレ「日曜美術館アートシーン」
- 7月2日 京都新聞ジュニアタイムス（タブロイド）全面
- 7月3日 NHK 京都放送局 夕方のニュース

「中国青銅器の時代」展

- 9月21日 NHK E テレ「キュレーターバトル！」（山本学芸員出演）
- 10月26日 京都新聞ミュージアムガイド
- 12月3日 京都新聞ジュニアタイムス（タブロイド）全面
- NHK 総合「ダーウィンが来た！お正月特集 龍のナゾ大研究！」（2024/1/14 放映）（山本学芸員出演）
- 京都市動物園インスタライブ（山本学芸員出演）

「泉屋ビエンナーレ 2023 Re-sonation ひびきあう聲」展（主催 住友グループ各社、京都新聞）

- 8月9日 京都新聞朝刊 社告
- 8月22日 産経新聞朝刊 広告（有料出稿・「大阪・関西万博特集名刺広告」近畿セット版）
- 9月2日 京都新聞夕刊 社告
- 9月7日 京都新聞朝刊 特集紙（全10段カラー）
- 9月8日 NHK 京都放送局 夕方のニュース
- 9月8日 京都新聞夕刊「くらしインフォ」
- 9月9日 京都新聞タブロイド Irumiru
- 9月10日 京都新聞朝刊 開幕記事
- 9月10日 朝日新聞朝刊 広告（有料出稿・京都版）
- 9月12日 FM 京都 α-Station
- 9月12日 読売新聞朝刊 広告（有料出稿・大阪本社版）
- 9月15日 朝日新聞朝刊 広告（有料出稿・大阪府内版）
- 9月22日 京都新聞朝刊 情報ワイド
- 9月27日 京都新聞朝刊 広告（全5段カラー）
- 9月27日 産経新聞夕刊「プレミアム+1」
- 10月4日 朝日新聞朝刊 広告（有料出稿・滋賀版）
- 10月5日 朝日新聞朝刊 広告（有料出稿・奈良版）

10月7日 朝日新聞朝刊 広告（有料出稿・京都、大阪府内版）
雑誌等有料出稿 新潮社「芸術新潮」9月号、マガジンハウス「カーサブルータス」9/8発行号、ウェブ版美術手帖、「耳で聞く美術館」、PR-TIMES リリース代行配信
MK タクシーインスタライブ（山本学芸員出演）

特別展「表装の愉しみーある表具師のものがたり」（主催 京都新聞）

10月7日 京都新聞朝刊 社告
10月27日 京都新聞夕刊 社告
11月2日 京都新聞朝刊 特集紙（全10段カラー）、開幕記事
11月4日 京都新聞朝刊 開幕記事
11月10日 京都新聞夕刊「くらしインフォ」
11月12日 京都新聞朝刊 情報ワイド（全10段カラー）
11月29日 京都新聞朝刊 広告（全5段カラー）
PR TIMES リリース配信

・東京：新聞、テレビ等を通じての広報

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展IV

「不変／普遍の造形ー住友コレクション中国青銅器名品選」（主催 日本経済新聞社）

1月8日 陸奥新報
1月14日 日本経済新聞（広告出稿）
1月21日 新美術新聞
1月24日 朝日新聞（山本学芸員取材有）
1月29日 NHK E テレ「日曜美術館アートシーン」（山本学芸員出演）（再放送2月5日）

特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選 101」（主催 住友グループ各社、大阪
市立東洋陶磁美術館、日本経済新聞社）

3月16日 朝日新聞朝刊連合企画（広告出稿）
3月18日 日本経済新聞夕刊（広告出稿）
4月1日 朝日新聞（図録紹介）
4月6・7日 朝日新聞・東京新聞 連合企画（広告出稿）
4月16日 J-WAVE TDK VOICES FROM NIHONMONO（森下学芸員出演）
5月6日 読売新聞（紡ぐプロジェクト）
5月10日 BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（森下学芸員出演）

特別展「木島櫻谷ー山水夢中」（主催 公益財団法人櫻谷文庫、BS フジ、ライブエグザム）

随時 BS フジ展覧会スポット CM

5月27日 産経新聞（広告出稿）
6月9日 朝日新聞 連合企画（広告出稿）
6月25日 NHK E テレ「日曜美術館アートシーン」（実方学芸部長出演）（再放送7月2日）
6月27日 朝日新聞夕刊（美の履歴書）
7月12日 BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（実方学芸部長出演）

「楽しい隠遁生活ー文人たちのマインドフルネス」展（主催 日本経済新聞社）

8月25日 Biz Life Style（広告出稿）
8月28日 日本経済新聞 社告

- 9月15日 朝日新聞 連合企画（広告出稿）
- 9月19日 朝日新聞夕刊（美の履歴書）
- 9月22日 読売新聞 連合企画（広告出稿）
- 10月1日 NHK Eテレ「日曜美術館アートシーン」（野地東京館長出演）（再放送 10月8日）
- 10月13日 ニッポン放送「うどうのらじお」中継コーナー（野地東京館長出演）

特別企画展「日本画の棲み家 ―「床の間芸術」を考える」（主催 日本経済新聞社）

- 10月28日 TOKYO FM ビズスタラジオ放送（広報橋本課員出演）
 - 10月30日 ビズスタ Web 記事配信
 - 11月2日 朝日新聞 連合企画（広告）
 - 11月20日 日本経済新聞
 - 12月3日 NHK ラジオ「ラジオ深夜便」23時台「美術館に行きませんか」
- 共同通信記事配信（地方紙掲載）

・両館の情報掲載

展覧会スケジュール掲載

住友大阪セメント社内報 2023 年陽春号

住友グループ広報委員会ホームページ

ほかインターネット・地域情報紙・雑誌等に多数掲載、SNS 常時更新。

・公式ウェブサイトの更新

ウェブサイトの京都ページに英文ページを追加、2023 年開催展覧会予定および基本情報を作成・公開。東京は 2022 年 12 月に作成・翌 1 月期展覧会より運用開始。

5. 年間パスポートの販売

2022 年より京都、東京の両館において来館者サービスの一環として年間パスポートを作成、販売、好評であったため継続した。

- ・東京販売数 2022 年 403 枚、2023 年 504 枚
- ・京都販売数 改修休館を見据え 2022 年に 200 枚作成、売り切りとした（2023 年に完売）。



泉屋博古館東京年間パスポート



泉屋博古館年間パスポート

学識役員懇談会

昨年に引き続き、従来の博物館評価委員会をより実質的な内容で展開するものとして、学識理事・評議員との懇談会を2回（9月26日泉屋博古館（京都）、11月14日泉屋博古館東京）開催した。館員とのフリートーク形式で、両館で開催した展覧会の内容や美術館運営について、専門的な視点からの意見、助言などを得ることができた。



「泉屋ビエンナーレ 2023 Re-sonation ひびきあう聲」展



「日本画の棲み家 —「床の間芸術」を考える」展

当館で活動するボランティア



研修の様子

《青銅器解説ボランティア》

2023年は登録30名のうち28名が青銅器解説ボランティアとして活動した。また技能維持のためのフォローアップ研修を2月22日・8月18日の2回行った。秋季展では京都市動物園と青銅器館のコラボ展示を行った結果、幼年者を含む幅広い世代が青銅器館を訪れ、解説ボランティアと交流することとなったが、来館者アンケートでは解説内容やガイドの接し方についても好評であった。

《監視ボランティア》

2023年は「泉屋ビエンナーレ 2023」展を除く、3つの展覧会でボランティアの監視員を配置した。人員はいずれも虹の会及び京都市文化市民ボランティアから募集し、いずれの展覧会も京都市民を中心に70名近い応募と、50名前後の活動があった。前年に引き続きマスク着用などの感染症対策をしながら、活動を行った。

蔵品管理特記事項



《二条城行幸図屏風》

・所蔵品の文化財指定（京都）

当館所蔵の《二条城行幸図屏風》（六曲一双）が京都市の市民文化・地域文化の向上および発展を図る上で重要とみなされ1月27日の文化財保護審議会にて京都市指定文化財に指定された。

・「住友コレクション名品選 ―フランスと日本近代洋画」展 巡回

2021年に神戸市立小磯記念美術館での開催に続き、大分会場・島根会場へ巡回した同展への洋画貸出、展示協力を行った。

「住友コレクション名品選 ―フランスと日本近代洋画」

7月1日～8月31日 大分県立美術館

主催：大分県芸術文化スポーツ振興財団
大分県立美術館

9月8日～11月6日 島根県立美術館

主催：島根県立美術館、山陰中央新報社、
日本海テレビ、SPSしまねグループ

（いずれも企画：神戸新聞社）



島根県立美術館会場



仏像供養

・仏像供養（京都）

11月14日講堂にて、清涼寺住職の読経により仏像供養を行った。

泉屋博古館リニューアル工事

泉屋博古館（京都）は築50年を経て建物・設備の劣化のほか、現代的な来館者対応機能や美術工芸品の収蔵機能にも不足がみられるところ、文化財保存公開施設としての建築物保全と景観の維持、迎賓施設としての格調維持を図りながら、来館者・賓客へのホスピタリティ改善および美術館としての品質維持・サステナビリティを達成するため、改修および収蔵庫増築工事の検討を進めた結果、2024年度は休館して同工事を実施し、2025年春をめどに再開館することとした。

本年度は基本設計・実施設計のほか収蔵品の仮移転など関連準備を進め、一部解体工事に着手した。

増築イメージ（新収蔵庫）



- ① 1号館（1970年竣工）
- ② 2号館（1986年竣工）
- ③ 増築 新収蔵庫
（2025年春竣工予定）

改修イメージ
（1号館エントランス・ショップ）



解体前の土蔵（右）と屋外倉庫



解体中



泉屋博古館設立の目的

当館は、住友家の収集にかかる古代青銅器を中心とする国宝、重要文化財等の美術工芸品および当館が取得した文化財の保存および公開、並びにこれらに関する調査研究を行い、学術研究の発展を図り、もって我が国の文化の向上と文化財の保護に寄与することを目的としております。

泉屋博古館の事業

当館は、上記目的を達成するため、次の事業を行います。

- (1) 美術工芸品の収集、保存および公開
- (2) 美術工芸品に関する調査研究、紀要、解説書、図録などの発行
- (3) 美術工芸品に関する研究会、講演会等の開催
- (4) 美術館の設置、運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

賛 助 会 員 2023 年 12 月 31 日現在

特別法人会員

住友化学株式会社	住友重機械工業株式会社
株式会社三井住友銀行	日本製鉄株式会社
住友金属鉱山株式会社	住友商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社	住友生命保険相互会社
株式会社住友倉庫	住友電気工業株式会社
三井住友海上火災保険株式会社	日本板硝子株式会社
日本電気株式会社	住友不動産株式会社
住友大阪セメント株式会社	三井住友建設株式会社
住友ベークライト株式会社	住友林業株式会社
住友ゴム工業株式会社	住友ファーマ株式会社

法人会員 (50 音順)

株式会社関西 C・I・C 研究所	株式会社薬研社
ワケンホールディングス株式会社	

個人会員 (敬称略、50 音順)

足立康庸	熊澤保夫	古賀邦正	藤見知愛子	松波弘之
武藤治太	森 重文			

役員・評議員

2023年12月31日現在

理 事 長	奥 正 之	三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
常務理事	北 野 幸 広	住友成泉社長
理 事	遠 藤 信 博	日本電気特別顧問
	岡 村 秀 典	黒川古文化研究所長
	大久保 哲夫	三井住友トラスト・ホールディングス会長
	小野寺 研一	住友不動産会長
	熊 倉 功 夫	MIHO MUSEUM 館長
	家 守 伸 正	住友金属鉱山名誉顧問
	佐々木 丞平	京都国立博物館名誉館長
	住友 吉左衛門	住友財団理事長
	十 倉 雅 和	住友化学会長
	長 崎 巖	共立女子大学家政学部教授
	中 村 邦 晴	住友商事会長
	西 上 実	京都国立博物館名誉館員
	橋 本 雅 博	住友生命保険会長
	廣 川 守	泉屋博古館長
	松 本 正 義	住友電気工業会長
監 事	磯野 與志嗣	税理士
	関 根 福 一	住友大阪セメント会長
	森 重 樹	日本板硝子会長
評 議 員	池 田 育 嗣	住友ゴム工業特別顧問
	市 川 晃	住友林業会長
	小 野 孝 則	住友倉庫社長
	柄 澤 康 喜	MS&AD ホールディングス会長
	下 村 真 司	住友重機械工業社長
	多 田 正 世	住友ファーマ名誉顧問
	出 川 哲 朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
	友 野 宏	日本製鉄社友
	藤 原 一 彦	住友ベークライト社長
	馬 淵 明 子	前国立西洋美術館長

貸借対照表

2023 年 12 月 31 日現在

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	149,247,387	59,645,080	89,602,307
棚卸資産	13,793,224	15,617,258	-1,824,034
仮払金	200,000	200,000	0
前払金	3,345,038	3,511,733	-166,695
前払費用	1,948,972	1,866,732	82,240
立替金	25,432	58,393	-32,961
未収金	671,283	1,727,669	-1,056,386
流動資産合計	169,231,336	82,626,865	86,604,471
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
美術品	6,469,328,720	6,429,608,720	39,720,000
土地	2,882,732,000	2,882,732,000	0
投資有価証券	2,103,569,400	2,154,759,700	-51,190,300
基本財産合計	11,455,630,120	11,467,100,420	-11,470,300
(2) 特定資産			
宮繕積立資産	7,513,199	7,513,199	0
基本財産購入積立資産	14,773,807	14,773,807	0
保存公開事業積立資産	3,002,700	3,002,700	0
調査研究事業積立資産	20,431,000	20,431,000	0
株式	665,021,400	495,011,200	170,010,200
株式取得資金	52,563,184	53,731,157	-1,167,973
構築物等	436,591	468,343	-31,752
特定資産合計	763,741,881	594,931,406	168,810,475
(3) その他固定資産			
建物	1,232,862,073	1,289,772,431	-56,910,358
その他	217,170,338	244,636,241	-27,465,903
建設仮勘定	26,972,000	0	26,972,000
長期前払費用	1,400,053	3,266,785	-1,866,732
その他固定資産合計	1,478,404,464	1,537,675,457	-59,270,993
固定資産合計	13,697,776,465	13,599,707,283	98,069,182
資産合計	13,867,007,801	13,682,334,148	184,673,653
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	18,823,962	20,249,424	-1,425,462
預り金	2,723,653	3,877,546	-1,153,893
前受金	0	0	0
流動負債合計	21,547,615	24,126,970	-2,579,355
2. 固定負債			
敷金	960,000	960,000	0
その他固定負債	25,297,121	25,046,654	250,467
固定負債合計	26,257,121	26,006,654	250,467
負債合計	47,804,736	50,133,624	-2,328,888
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
基本財産 美術品	6,459,801,120	6,425,078,120	34,723,000
特定資産 構築物等	436,591	468,343	-31,752
受取補助金	0	910,000	-910,000
指定正味財産合計	6,460,237,711	6,426,456,463	33,781,248
(うち基本財産への充当額)	(6,459,801,120)	(6,425,078,120)	(34,723,000)
(うち特定資産への充当額)	(436,591)	(468,343)	(-31,752)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	7,358,965,354	7,205,744,061	153,221,293
(うち基本財産への充当額)	(4,995,829,000)	(5,042,022,300)	(-46,193,300)
(うち特定資産への充当額)	(763,305,290)	(594,463,063)	(168,842,227)
正味財産合計	13,819,203,065	13,632,200,524	187,002,541
負債及び正味財産合計	13,867,007,801	13,682,334,148	184,673,653

法人概要

正味財産増減計算書

2023年1月1日から2023年12月31日まで

単位：円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	43,097,399	44,885,171	-1,787,772
特定資産運用益	25,597,786	22,802,467	2,795,319
入場料	50,361,888	38,724,627	11,637,261
事業収益	46,316,752	24,400,881	21,915,871
受取補助金等	10,635,000	1,848,134	8,786,866
受取寄付金	347,960,857	162,760,000	185,200,857
	941,752	983,752	-42,000
雑収益	2,239,229	45,937,807	-43,698,578
経常収益計	527,150,663	342,342,839	184,807,824
(2) 経常費用			
事業費			
展覧会費	95,896,141	56,824,385	39,071,756
美術品修繕費	8,837,681	2,086,060	6,751,621
調査研究費	10,225,058	4,276,581	5,948,477
広告宣伝費	15,820,360	17,869,004	-2,048,644
給与費	86,100,319	85,277,736	822,583
雑給	13,429,238	11,463,508	1,965,730
旅費交通費	9,940,066	6,898,550	3,041,516
通信運搬費	1,412,321	1,298,532	113,789
光熱水道費	13,247,386	13,362,293	-114,907
消耗品費	2,506,183	5,411,085	-2,904,902
保守費	23,634,283	22,096,701	1,537,582
賃借料	19,796,843	18,121,208	1,675,635
委託費	10,948,187	7,648,014	3,300,173
本館改修工事関連費用	3,846,025	0	3,846,025
租税公課	3,894,932	1,425,285	2,469,647
雑費	1,833,395	1,467,094	366,301
特定資産減価償却費	31,752	31,752	0
その他固定資産減価償却費	80,398,586	83,129,549	-2,730,963
事業費計	401,798,756	338,687,337	63,111,419
管理費			
給与費	43,603,263	42,927,334	675,929
旅費交通費	2,881,993	2,201,232	680,761
通信運搬費	1,332,361	1,531,726	-199,365
光熱水道費	6,656,325	6,703,190	-46,865
消耗品費	1,340,125	1,250,791	89,334
保守費	10,733,009	10,306,915	426,094
賃借料	10,117,368	10,650,737	-533,369
委託費	3,752,474	7,294,377	-3,541,903
東京館増改築関連費用	0	429,000	-429,000
雑費	2,878,728	4,039,773	-1,161,045
その他固定資産減価償却費	6,438,825	6,437,729	1,096
管理費計	89,734,471	93,772,804	-4,038,333
経常費用計	491,533,227	432,460,141	59,073,086
評価損益等調整前当期経常増減額	35,617,436	-90,117,302	125,734,738
基本財産評価損益等	-21,190,300	-74,519,500	53,329,200
特定資産評価損益等	138,842,227	86,969,040	51,873,187
評価損益等計	117,651,927	12,449,540	105,202,387
当期経常増減額	153,269,363	-77,667,762	230,937,125
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他固定資産受贈益	149,930	2,107,368	-1,957,438
経常外収益計	149,930	2,107,368	-1,957,438
(2) 経常外費用			
その他固定資産除却損	198,000	95,348	102,652
過年度減価償却修正損	0	308,280	-308,280
経常外費用計	198,000	403,628	-205,628
当期経常外増減額	-48,070	1,703,740	-1,751,810
当期一般正味財産増減額	153,221,293	-75,964,022	229,185,315
一般正味財産期首残高	7,205,744,061	7,281,708,083	-75,964,022
一般正味財産期末残高	7,358,965,354	7,205,744,061	153,221,293
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益	34,723,000	9,050,000	25,673,000
受取補助金	0	910,000	-910,000
一般正味財産への振替額	-941,752	-983,752	42,000
当期指定正味財産増減額	33,781,248	8,976,248	24,805,000
指定正味財産期首残高	6,426,456,463	6,417,480,215	8,976,248
指定正味財産期末残高	6,460,237,711	6,426,456,463	33,781,248
III 正味財産期末残高	13,819,203,065	13,632,200,524	187,002,541

泉屋博古館蔵品紹介

第7回 漆芸

つややかな塗り肌、研ぎ澄まされた超絶技巧—漆芸品の魅力は枚挙にいとまがありません。そうした漆の魅力を再認識させる作品が住友コレクションには揃っています。そしてその数々が、多岐にわたる美術ジャンルに横断的に存在するため、思わぬ文脈で優れた漆芸品に出会うこともあり、例えば掛け軸などを収めるための収納箱自体が蒔絵で美しく装飾されているのに出会うと、思わず次の漆芸展にキャスティングしたくなります。予想外の驚きを与えてくれる住友の漆芸コレクションの特徴や蒐集経緯を簡潔に答えるのは至難ですが、ここでは試案として三点列挙したいと思います。

まず一つに、何らかの使用用途を持つもの、すなわち「道具」として蒐集されたものが大半を占めるということです。つまり、歴代当主は漆芸品だからという理由で蒐集したのではなく、食器として必要にかられて、あるいは茶や能の道具に美しさを追求した結果、蓄積されたのが住友の漆芸コレクションです。その代表例たる会席膳などの食器セットには大阪の商家たる堂々とした風格が備わり、家の伝統や格式を重んじる空気が滲み出ています。一方で茶道具や能楽器には蒐集者個人の美意識が如実に反映されており、情趣と愛らしさを兼ね備える作品が多く見られます。

二つ目に、漆芸文化が花開いた東アジア地域の作品が満遍なく揃っていることです。制作年が明確な基準作を含む中国の彫漆や、桃山時代から昭和初期までに制作された作品が揃う日本の蒔絵、さらに朝鮮半島や琉球の螺鈿にも目配りがあり、漆芸をめぐる東アジアの交流を俯瞰するような国際的な視点が感じられます。こうした国際色を狙って蒐集したわけではないと思われますが、それが自然とコレクションに備わったのはやはり、日本の古典文化と中国の文人文化に通じていた15代当主の住友春翠の存在が大きいのと考えられます。

そして最後に、当館の漆芸コレクションは、住友春翠を中心とした上方の近代数寄者の交流を立体的に復元できる可能性を有しています。というのも、漆芸品は軽量ながら見栄えよく、贈答品として大変好まれ、住友コレクションにも数寄仲間から贈答された漆芸品が数多く残されています。また、保全状況もよく、作品箱も当初のままのものが多く、その箱書を持つ情報量は膨大です。なかにはパトロンと漆芸家の関係を示す作品もあり、上方を中心とする近代漆芸史をこれから描き出していく上で、欠かせないコレクションと言えるでしょう。

さて思いつくまま列挙してきましたが、こうした住友コレクションが有す史的価値を今後も丁寧な調査を通して地固めしながら、同時に一つ一つの作品の造形的魅力を発信することも疎かにしない企画展で、みなさまをお待ちしております。

(竹嶋康平)

コラム



《龍図堆黄円盆》明 万暦 17 年 (1589)、泉屋博古館
口径 21.3cm 高 2.8cm

木製の盆に、背景地となる朱漆、その上から黄漆を何百回も塗り重ねて生み出された漆層に龍や波濤などの文様を彫り込んでいます。彫漆と呼ばれる技法で、特に黄漆が最上層にあるものを堆黄と言います。彫刻の際には、深さを巧みに変えて、目鼻立ちの立体感や顔と体の前後関係などうまく表現しており、万暦期に生み出された作品らしい堂々たる風格を示します。

原羊遊斎《梅蒔絵棗》江戸時代 19 世紀、泉屋博古館東京
口径 7.9cm 高 7.9cm

酒井抱一《梅蒔絵棗添状》江戸時代 19 世紀、泉屋博古館東京
本紙：縦 18.4cm 横 44.7cm

茶事の薄茶器として用いられる棗ですが、本作では茶褐色の半透明な色味が特徴の透漆を用いた木地溜塗によって、美しい木目が引き立てられています。さらに金銀の薄肉高蒔絵で椿を一枝表し、情趣を添えます。椿の図案には抱一が関わっており、その様子を窺い知ることのできる書状が添状として一緒に伝わっています。書状の内容は、茶器の依頼主に抱一が棗のデザイン案を図示しながらこれで良いか問うものです。抱一にとってはさらりとしたためだけの書状ですが、その力の抜け具合がかえって魅力です。



日本蒔絵合資会社《耕作蒔絵茶箱》明治時代 19 世紀、泉屋博古館東京
縦 12.7cm 横 16.8cm 高 23.2cm



一見すると金属製の箱かと見間違えるかほどのまばゆい輝きを放つ本作は、金銀粉を緻密に蒔いて漆で固着させた後に研磨する蒔絵技法によって生み出されました。本作を制作した日本蒔絵合資会社は、明治 25 年 (1892) に蒔絵技術の研究教育と殖産興業を目指して、当時の大阪財界を代表する初代芝川又右衛門と住友の共同出資によって設立されました。

2024 年展覧会予定

泉屋博古館東京

企画展	うるしとともに ― 暮らしのなかの漆芸美	1 月 20 日 – 2 月 25 日
特集展示	受贈記念 伊万里・染付大皿の美	
企画展	ライトアップ木島櫻谷 ― 四季連作大屏風と沁みる「生写し」	3 月 16 日 – 5 月 12 日
併設展示	住友財団助成による文化財修復成果 ― 文化財よ、永遠に	
企画展	歌と物語の絵 ― 雅やかなやまと絵の世界	6 月 1 日 – 7 月 21 日
特別展	昭和モダン、モザイクのいろどり 板谷梅樹の世界	8 月 31 日 – 9 月 29 日
特集展示	住友コレクションの茶道具	
特別展	オタケ・インパクト 越堂・竹坡・国観、尾竹三兄弟の日本画アナキズム	10 月 19 日 – 12 月 15 日